

まえがき

近年、社会状況等の変化に伴い、子供たちの生活習慣の乱れ、メンタルヘルスに関する課題、アレルギー疾患、性の問題行動や薬物乱用、感染症など、様々な課題が生じています。

子供たちが、このような様々な課題の解決を図るためには、生涯を通じて健康な生活を送る基礎を培うことを目指した学校における保健教育を推進することが重要です。

高等学校における保健教育は、保健体育科の科目「保健」を中心に各教科等において、それぞれの目標や内容に即して指導が行われています。子供の健康に関する資質や能力を育成するためには、保健体育科、特別活動などの特質に応じ、相互に関連させる指導の在り方の一層の充実が求められます。

このため、本書は、学習指導要領の改訂等を踏まえ、学校における保健教育の基本的な考え方を示すとともに、保健体育科においては教科担任が、特別活動等においてはホームルーム担任等が授業を行う際に参考となる事例や各教科等が相互に関連するためのポイント等を掲載しました。各学校において本書を十分活用されることで、子供たちが健康に関心をもち、生涯を通じて健康な生活を送る基礎を培うことができるよう、保健教育の一層の推進を図ることを期待しています。

末尾となりましたが、本資料の作成に当たり多大な御尽力をいただきました作成協力者の皆様方に対し、心から感謝申し上げます。

平成 27 年 3 月

文部科学省スポーツ・青少年局長
久保 公 人

目 次

第1章 総 説	1
第1節 学校における保健教育の意義	2
第2節 指導の基本的な考え方	5
第3節 目標、内容及び指導方法	14
第2章 各教科等における保健教育の実際	23
第1節 保健体育（科目保健）	24
1. 第1学年（1）現代社会と健康 ア健康の考え方「健康の考え方と成り立ち」	24
2. 第1学年（1）現代社会と健康 イ健康の保持増進と疾病の予防「がんとその予防」	28
3. 第1学年（1）現代社会と健康 イ健康の保持増進と疾病の予防「エイズとその予防」	34
4. 第1学年（1）現代社会と健康 ウ精神と健康「ストレスへの対処」	40
5. 第1学年（1）現代社会と健康 オ応急手当「心肺蘇生法」	46
6. 第2学年（2）生涯を通じる健康 ア生涯の各段階における健康「結婚生活と健康」	52
○性に関する指導の留意点	58
7. 第2学年（2）生涯を通じる健康 イ保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 「医薬品と健康」	60
8. 第2学年（3）社会生活と健康 ウ労働と健康「労働災害と健康」	66
第2節 特別活動（生徒会活動、学校行事等）	72
1. 生徒会活動「生徒保健委員会活動で取り組む心肺蘇生法の普及啓発活動」	72
2. 学校行事「薬物乱用防止教室」	78
第3章 保健教育を効果的に進めるために	85
第1節 指導計画の立案を通じた教職員の共通理解	87
第2節 各教科等の関連を図った指導の進め方	89
第3節 家庭との連携	90
第4節 地域の関係機関等との連携	91